

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4170200507
法人名	有限会社 久里の郷
事業所名	グループホーム久里の郷
訪問調査日	平成 19年 6月 16日
評価確定日	平成 19年 8月 21日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170200507		
法人名	有限会社 久里の郷		
事業所名	グループホーム久里の郷		
所在地	佐賀県唐津市久里1130番8 (電話)0955-78-3811		

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成19年6月16日	評価確定日	

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.8 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての1階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	77.8 歳	最低	71 歳	最高	83 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	河畔病院 保養院 みのほら歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川と川の間に来た集落で、地域自体がまとまりのある環境である。スタートして一年余りで地域密着という観点から見ると、素晴らしい運営が出来ている。一步一步時間を掛けて自然なかたちで、地域に入り込み近所つき合いが感じられるホームである。専門的な知識よりも、人との関わり方に重点を置き利用者が望んでいることから行動している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で内容を確認することから始めている。評価の一連の過程を通じ職員間の共有した意識とケアの振り返りや見直しに繋がられることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の討議される内容が計画的に取り組みされていない。情報交換の場となり、これからの広がりが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	便りで利用者の情報を個々に伝えることで、家族不安の軽減に繋がっている。家族同士の交流により、同じような立場のもの同士で話し合うことで理解し合うことが出来たり、不安や不満などを表出する事が出来るよう一層の取り組みを期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	普通の家庭が移り住んできたように、ホームから地域に溶け込んでいる。最初は運営者や職員が中心になって地域に関わりを持つよう行動を起こしてきたが、これからはチームとして関わりが広がることを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時より運営者・職員が地域を知ることからスタートしており、地域で生活をする中で自然に芽生えた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時からの運営者・職員が一步一步実践しながら運営をしている。採用時には理念を伝え折に触れて話をし、日常の業務の中で確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所時から一住民として地域に参加し、自治会や老人会にも加入している。地域行事には率先して参加しながら、より深い関係を築いてきている。公園の清掃や運動会・夏祭りなど利用者と一緒に参加をしている。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで日常のホーム運営を振り返り、気づいたことから改善に向けての取り組みを行っている。評価を正確に捉え、質の向上へ繋げていく考えである。	○	自己評価を職員に回覧し皆が確認して意識の向上を図っているが、職員全員が真の評価の意義を理解し、それを活かした日常的な取り組みまで踏み込んだの検討が期待される。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度を目標に会議が開かれ、参加されている方と幅広い内容の意見交換の場となっている。事故を想定した対処方法など、多面的なアドバイスも行われている。	○	運営推進会議の意義や役割等を十分に理解して積極的に参加してもらえるよう一層の働きかけが期待される。また、評価で明らかになった課題や改善に向けた取り組み状況について報告、検討する場となるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口と常に連携を取り、市の事業や研修会に参加をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月便りを家族に郵送している。日常の様子や行事を伝えたり、利用者本人の写真とコメントも入れ様子を伝える事により家族からの安心を得られている。病院へ通常以外に掛かるときは状態を伝え、その後の報告をするなど家族との連携もきめ細かくなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望などが出た場合は、利用者本位で検討を行い、お互い納得がいくまで話し合う努力をしている。チームで考え十分時間を掛け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の立場から職員の移動が望ましくないことを理解した上で、運営者や管理者もホームで介護などに関わり馴染みの顔となって移動の少ないホームを目指している。職員の個人的事情も考慮しながらローテーションが組まれるなど、離職を防ぐ工夫がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性は認識しているが、経験や習熟度の段階に応じた研修の機会を計画的に確保するまでにはなく、管理者や一部の職員のための研修となっている。	○	職員各自に応じた段階的、計画的な人材育成のため、限られた体制の中で実務に支障を来さないような研修機会の確保と全職員が共有できるような研修内容を報告する機会の確保等が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度任意の組織ではあるがグループホームの交流会に積極的に参加して、意見交換や交流を図っている。他のホームへお互いに訪問して、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初の段階で本人や家族と情報交換をし、理解を深めることに力を入れている。ホームに来てもらったり職員が出向いたりしながら、徐々に馴染んでいく配慮がされている。段階を踏んで体験入所を行うなど、利用者の状態に合わせて利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の背負っている背景を知ったうえで、行動や言動を受け止め理解している。職員が利用者に見えたり事務室に利用者の訪問も多く、お互い相談し合う関係が出来ている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族との状態や関係を知り、ご家族などから入所前の生活も詳しく聞き出す努力が日々なされている。その上で希望を引き出し、日常の様子などから意向をくみ取る配慮を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が快適に暮らせるには何が大切であるか、本人本位で検討する場をミーティング時に設けている。家族からの意見や職員が感じ取っていることなどを話し合い、介護計画に活かしている。利用者によっては以前入所していた施設からも情報を収集し取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度を目安に於いているが、変化が無くとも医師からも意見を貰ったりしながら見直しの検討を行っている。毎日の状態の積み重ねで少しでも変化を感じたら日々の記録を再確認し、様子を見ながら柔軟に見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的に病院への送迎は職員が行っている。買い物などの外出には利用者の希望に出来るだけ応えるよう職員で行っている。遠出の場合も検討し、利用者への配慮がなされている。家族の宿泊も柔軟に受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居者のかかりつけの病院での受診を行っている。緊急時や状況によっては主治医に拘ることなく医療機関を選択しているが、主治医を変えるときは本人や家族の了解を得ている。またそれぞれの機関とも信頼できる関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの主治医や関連機関にも連携を取り、終末期までホームで対応できる体制を作っている。職員もそのことを理解している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の相談事は他の利用者の居ないところで聞いたり、誇りを損ねないよう一人ひとりに気配りがなされ、本人に合わせた対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの呼びかけを第一に行動し、話を聞く姿勢である。職員が利用者を動かすのではなく、それぞれの生活リズムを把握し、その日の状態を観察した上で対応がされている。入居者の希望もいろいろな場面で聞かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を十分出して貰い、働く喜びに繋がっている。出来る方が何処かの場面で活躍する支援がなされている。職員も同じテーブルで料理に対する意見を聞いたりしながら一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	固定された制限はなく、希望で入浴され順番・入浴の長さなども自由である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	晩酌やイベントの時のビールなど普通の家庭では当たり前な楽しみを味わったり、カラオケを楽しんだりしている。買い物に出かけたり、ドライブに出かけ気分転換をしている。食事の後片づけや畑仕事で一役を担っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事に参加したり外食に出かけたり、お弁当を持って出かけたりしている。数人で散歩したり、個人で出かけたときも対応している。個人の遠出なども運営者や職員で検討し、出来る限りの支援をする準備がある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りやセンサー等の活用により日中の玄関の施錠は行っていない。また、地域との繋がりを深めることで鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消火訓練や避難訓練を行っている。緊急の連絡網も作成している。	○	マニュアルを作成したり、夜間やいろんな場面を想定し訓練を定期的に行うことを期待する。また訓練にも地域の方の参加もお願いし、災害時の協力へと繋いでいくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は入居者がどのくらい食べているか記録され、栄養士にアドバイスを受けながら献立を作り調理されている。多くの食品を使い品数を豊富にする事が心がけている。	○	こまめに心がけて水分補給をされているが、一日の食事や飲み物などで確実に飲んで貰っている量を知ることが求められる。職員全員が必要な摂取量を把握し、確実な摂取をチェックする仕組みも望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りから花が植えられ、自然と穏やかな気持ちになる。ホームの中心に居間と台所が位置して、利用者の居室に生活音や臭いなどが感じられる造りになっている。明るさも照明の量などで明るすぎない環境を意識している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の自由な空間になっていて、趣味のものや今までの生活をそのまま持ち込まれている方・必需品だけの方などそれぞれである。機能的に動きやすい状態になっていたり、ゆっくり過ごせる部屋になっている。		